南信州新聞　2025年(令和7年) 8月8日 金曜日

高校生「災害地の力」

能登半島支援でワークキャン

飯田市社協

高校生「被災地の力に」

能登半島支援でワークキャンプ

能登半島地震の被災地支援に絡めた災害・福祉教育の一環で、飯田市社会福祉協議会（原重一会長）の「高校生ボランティア・ワークキャンプ」事業に参加する生徒が7日、被災地に向けて出発した。飯田、飯田風越、OIDE長姫、飯田女子の4校から計16人が参加。1泊2日の日程で石川県鳳珠郡能登町を訪れ、日常の生活に戻るための支援活動や地域福祉の実践を学ぶ。

昨年度に続く取り組みで、被災地で学んだことを持ち帰り、災害時の支えになる人材を育成する狙い。2度の事前学習を通じて体験学習に備えた。

出発式が市勤労者福祉センターで開かれ、原会長は「何か一つでもいいので、生涯にわたって忘れることのないような思い出を確実につかんできてほしい」と激励。生徒を代表して風越高3年の西塚琉都さん(17)は「高校生にできることは限られるが、現地の人と向き合い、心を通わせることで何か小さな力になれると信じている」と意気込みを語った。

一行はバスで移動し能登町仮設住宅で自治会長から話を聞き、現地視察として能登町鵜川支所を訪れる予定。2日目は現地の公民館でサロン運営支援などのボランティア活動に当たる他、生活支援相談員から現地の生活再建について聞く機会もある。

訪問後の事後学習で活動をふり返り、12月13日の地域福祉活動推進研修会で活動報告する予定。

出発式に臨む高校生

橋北地区　夏休み子どもスペース

南信州新聞　2025年(令和7年) 8月9日土曜日

さん（10）は「人形作りが面白かった。宝探しをするような人形劇ができたら」と話した。

正午からの発表会は3階のシェアスペースで開き、一般の鑑賞を歓迎する。

××××××××××××

一緒に勉強や運動

橋北地区 夏休み子どもスペース

飯田市の橋北地区で5、6の両日、子どもの居場所づくり企画「夏休み子どもスペース」が開かれた。浜井場小学校の児童30人が参加し、住民たちと一緒に勉強や運動をして、夏休みの思い出をつくった。

夏休み期間中の子どもの居場所をつくろうと、まちづくり委員会の基本構想第1分科会を中心に開いており5回目。昨年から参加児童が大幅に増え、今年はさらに10人増加した。

橋北地区にある児童養護施設「おさひめチャイルドキャンプ」と連携しており、両日とも午前中は施設に出掛け、施設の子どもたちと一緒に夏休みの宿題に取り組み、工作で風鈴を作った。地区で地域人教育の探究学習をしている飯田OIDE長姫高校の生徒も協力し、勉強を教えた。昼は住民が子ども食堂を開き、皆でホットドッグなどを作って食べた。

リズムジャンプに挑戦する子どもたち

6日の午後は公民館で「リズムジャンプ」を体験。音楽のリズムに合わせて線を跳び越える運動で、運動能力のほか集中力も高める効果があるとされる。児童たちは音楽が流れると、線を踏まないように指示された動きをしながら前に進み、回転ジャンプや後ろ向きなど難易度が上がると盛り上がり、ゴールして大人や高校生とハイタッチしていた。

第1分科会リーダーの城田茂さんは「多くの人の協力で実施でき、子ども食堂など皆さんのある力を持ち寄り、地区の多世代が交流する場にもなっている」と話していた。

地域人教育の探求学習生徒も活動に協力

かがわ総文祭　**ロボット部門　総合３位　特別賞**

2025年（令和７年）８月10日　日曜日　南信州新聞

出場選手が総合3位と特別賞

かがわ総文祭ロボット部門に出場

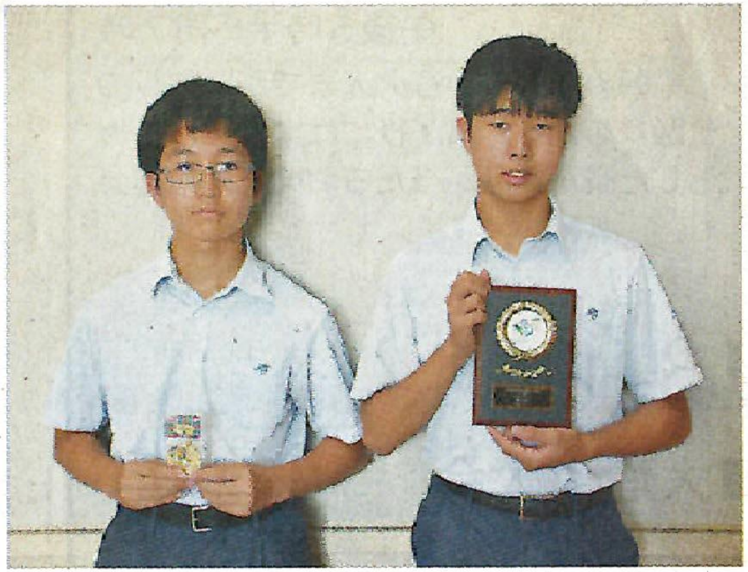
OIDE長姫高

7月30、31日に香川県高松市で開かれた第49回全国高校総合文化祭「かがわ総文祭2025」のロボット部門に、飯田OIDE長姫高校電気部マイコンカー班の2人が出場した。電気電子工学科の後藤桔梗さん（3年）が総合3位、電子機械工学科の増田陽さん（3年）が審査員特別賞を受賞する活躍をみせた。

決められたコースを走行させタイムを競う「ノーマル」、決められたコースを規定のタイムで走行する「ジャストタイム」、直線コースなどを疾走する「ドラッグ」の3競技があり、総合ポイントで順位を競った。

後藤さんは予選を1位で通過し決勝に進んだが、惜しくも3位に終わった。悔しさを口にし、「大会中にマシンの調整や修正を的確に行わなければいけない。その課題が見つかった。今後も大会があるのでしっかり準備したい」と前を向いた。

予選4位だった増田さんは規定（決勝は原則各校1人）により決勝には進めなかったものの、総合力が評価され審査員特別賞を受賞した。「全てにおいて少し準備不足のまま臨んでしまった」と悔しさをのぞかせたが、「自信になったので次に生かしたい」と話した。



ロボット部門に出場した後藤さん（右）と増田さん

今後の大会は10月4日に「ROBOCON IN 信州」、11月8、9日には全国大会へつながる「ジャパンマイコンカーラリー北信越大会」が開かれる。

ロボット部門は信州総文祭以来7年ぶりの開催。信州総文祭では同校が運営校として携わった。

顧問の小松暉敬教諭は「これからもロボット部門が受け継がれて行ってほしいという思いをつなげたと思う」と大会を振り返った。